

本学「インターネット論Ⅰ」および「インターネット・リテラシーⅠ」の教育内容構成論

高橋哲男

●要約

筆者は、本学に赴任した2002年から2006年まで5年間にわたり、「インターネット論Ⅰ」および「インターネット・リテラシーⅠ」の授業を担当してきた。両科目は先に「インターネット論Ⅰ」、後に「インターネット・リテラシーⅠ」の順で、必ず2コマ続きで開講されている。前者は講義室で、後者は実習室で授業が行われるが、教育目標および教育内容の面で両者は連続性、相互補完性をもつ一体のものとして捉えることができる。

これらの科目は本学で「情報メディア学」を学び始める学生たちにとって、「情報メディア入門」とともにまさに入門的・概論的性格をも併せもつ。したがって、「インターネットとは何か」を教えるだけでなく、「情報とは何か」を伝えることが必要になると考えた。そこで小論では、5年間の「インターネット論Ⅰ」、「インターネット・リテラシーⅠ」の授業実践を踏まえながら、「情報は継承される」「情報は加工される」「情報は分類される」「情報は統合される」という情報が見せる四つの側面を柱にした、両科目の教育内容構成について論じている。

●キーワード

教育方法学

教育内容構成論

情報教育

情報概念

インターネット

リテラシー